

この取扱説明書を良く読んでご使用ください。取扱説明書は保管して下さい。
本器は理化学機器です。一般の方はご使用できません。本器は空焚防止機能付きのウォーターバスです。バス内の温度が均一になるよう、マグネチックスターラー等でかきまぜながら使用するとバス内の温度が安定します。攪拌装置は内蔵していません。**水専用です。[純水等精度の高い、通電しない水には反応しません。]**

仕 様

バス	SUS304, 内寸φ240×H130mm(70%=4.1L)
ヒーター	AC100V, 500W 銅ニッケルメッキ製
温度調整方式	サーミスターゼロクロス比例制御, ダイアル設定
安全装置	センサー式 導電率センサーによる水位検出 OFF 機能
付属品	火傷保護シート シリコン製×2
使用温度範囲	(常温+5℃)～80℃ (30～93℃)
温度精度	±0.5℃(攪拌時)
電源	AC100V,50/60Hz,5A 三芯接地プラグ付電源コード
使用環境	温度 5～35℃ 湿度 80%
外寸法・重量	W252×D315×H131mm・1.500g

安全のための注意事項

- 防爆型ではありません。引火性、爆発性のあるガスの雰囲気中では、絶対に使用しないでください。
- 水専用 [通電するもの] のバスです。水以外の液体を使用すると危険です。
- 電源は AC100V,6A 以上取れる三芯接地付コンセントに直接差し込んでください。三芯接地付コンセントがない場合も、必ずアースを接続してください。
- 接地アダプターの使用はプラグの緩み等による過電流で火災等、事故の原因になる場合がありますのでご注意ください。
- 水平で落下しない場所に設置してください。周辺にある機器に水蒸気が当たらない場所で使用してください。
- 空焚防止装置は付いておりますが使用の際は定期的に水位を点検してください。実験を中断しないためです。
- 容器を取り出した時、極端に水位の変化する場合は電源を OFF にしたのち、容器を取り出してください。
- 水位は容器の容量も含めて水槽底から 70mm 以上に保ってください。
- 空焚防止器は SUS センサーと水槽内のテフロンでおおわれたセンサーと二重構造になっております。使用の都度、SUS センサーの先端 (SUS 部分とテフロンでおおわれた部分の両方) 約 50mm 位、汚れ等を柔らかい布でふき取ってください。センサーの感度を保つためです。
- 槽内の水は定期的に交換してください。
センサーに水垢等が付着しますと、機能が低下します。
- ヒーターは必ず水没している状態で電源を入れてください。水の入っていない状態で、電源を入れた場合、異常動作の可能性があります。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。加熱、火災の原因になります。
- ヒーターに直接手を触れると火傷します。手を触れないでください。
- 電装部に水がかからないようにしてください。腐食、電気系統の故障、特に漏電の原因になります。

一次頁へ続くー

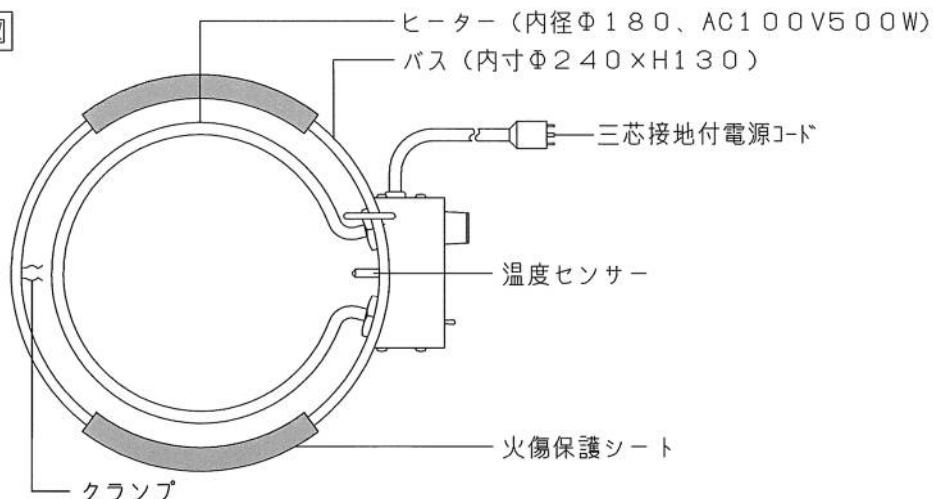
- バスのふちに触って火傷をしないように注意してください。火傷保護シートを使用すると火傷の可能性を減らすことができます。
- 火傷保護シートを使用する場合、保護シートを持ってバスを持ち上げないでください。
- スターラーで攪拌しながら使用するときは、バスの底に直接回転子がふれると穴が開く可能性があります。底面に直接回転子がふれないようステンレスの板やガラス板で保護してください。(板厚 1mm 位)
- 使用環境範囲を越えて使用しますと、動作不良、故障の原因となります。
- 実験終了後必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて保管してください。
- 雷が鳴り始めたら、電源スイッチ、元電源を切ってください。
- 装置を分解・改造しないでください。漏電、感電、異常動作、火災等、事故の原因になります。

使用方法

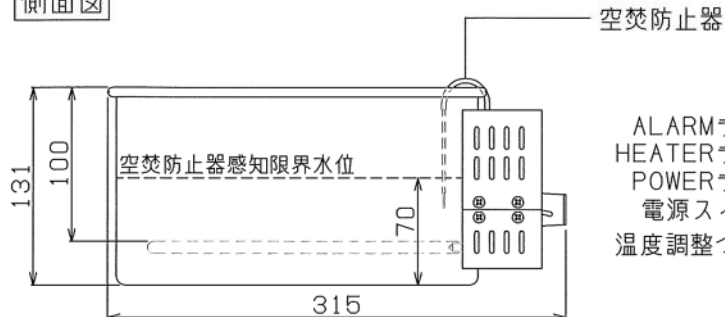
1. 火傷保護シートを水槽の外壁に均等に取り付けます。
2. 空焚防止器は SUS センサーと水槽内のテフロンでおおわれたセンサーと二重構造になっております。使用の都度、SUS センサーの先端 (SUS 部分とテフロンでおおわれた部分の両方) 約 50mm 位、汚れ等を柔らかい布でふき取ってください。センサーの感度を保つためです。
3. 空焚防止センサーの感知位置は水槽の底からおおよそ 70mm 以下になると作動します。使用する容器の容量を含めて水位を 70mm 以上に保ってください。水位がセンサーの感知位置以下になるとヒーターには通電されません。(純水等精度の高い、通電しない水には空焚防止器は反応せずヒーターには通電されません)。
4. 電源スイッチの OFF を確認して三芯接地付コンセントに電源プラグを差し込みます。
5. 温度調整つまみをまわして温度を設定します。
6. 必要に応じて温度計クランプにお手持ちの温度計を差し込みます。
7. 電源スイッチを ON にします。電源ランプとヒーターシグナルが点灯し、温調点に達するとヒーターシグナルは点滅します。
8. 攪拌装置は内蔵していません。バス内の温度が均一になるよう、スターラー等をかきまぜながら使用するとバス内の温度が安定します。
9. 冬期、水温の低い時は、最初に希望温度に近いお湯を入れると、効率よく実験ができます。
10. 気温、水量等によって到達温度は変わります。
11. 空焚防止器装置が作動した場合、ALARM ランプが点灯します。水を補給してください。使用中、水分が蒸発しますので、定期的に水を補給してください。
12. 槽内の水は定期的に交換してください。
センサーに水垢等が付着し、機能が低下します。
13. 使用後必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて保管してください。

機能説明図

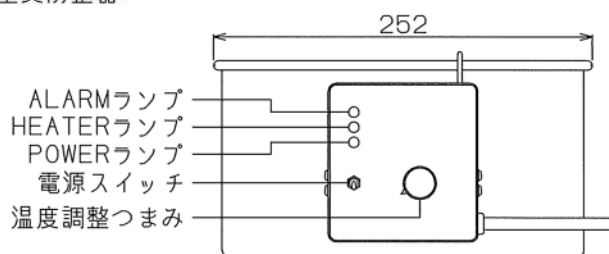
上面図



側面図



正面図



保証・故障・修理

1. 通常の使用における故障については、お買い上げ後一年間無償保証します。
印刷の汚れ、剥がれ、外装の傷等、また、落下による破損、消耗品の交換等については、保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 使用中、異常が発生した場合、直ちに運転を中止し、販売店にご連絡ください
製造番号もあわせてご連絡ください。